

研究種目： 基盤研究 (C)  
 研究期間： 2006～2009  
 課題番号： 18520564  
 研究課題名 (和文) 西ドイツ「第二の建国期」におけるドイツ社会民主党の変容  
 研究課題名 (英文) The Transfiguration of the German Social Democratic Party in the Era of "the Second State's Founding"

## 研究代表者

安野 正明 (YASUNO MASAOKI)  
 広島大学・大学院総合科学研究科・教授  
 研究者番号： 80202365

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 史学・西洋史

キーワード： 戦後ドイツ、1960 年代、社会民主党

## 1. 研究計画の概要

- (1) 戦後ドイツ (西ドイツ) において伝統的な反民主主義的政治文化が消滅し、民主主義的政治文化が定着する過程について考察する。
- (2) 上記の過程においてドイツ社会民主党がどのような寄与をしたか。また、この党自体がどのように変わって 1969 年に政権担当政党になるに至ったかを解明する。

## 2. 研究の進捗状況

一次史料に基づいた歴史研究、特にドイツで文書館史料を収集しての実証的な歴史研究を進めている。

1949年の西ドイツ建国後は、多大な困難なく西欧民主主義が定着したと捉えるのが「定説」である。しかし、この「第一の建国期」においてはドイツに伝統的な反民主主義的政治文化は、決して弱くなってはいなかったことが改めて注目されている。アイデンティティの明確な「自分たちの民主主義」が定着した「第二の建国期」がいつごろで、戦前からこの伝統的な反民主主義的政治文化はどのようにして変わっていったのか、それとドイツ社会民主党の変化はどのように関係していたのかに関心を持って研究を進めている。

最近、具体的には、西ドイツの1960年代における社会変動を若干の分野・団体 (労働組合・司法・カトリック教会など) を例に分析した。また「1968年運動」、つまり学生運動を始めとする異議申し立て運動が民主主義の定着にどのような貢献をなしたかについて、特に注目して分析した。

政治革命を目指した「1968年運動」それ自体はデモクラティックなものではなく失敗であり、それによって直接的かつ極めて短期的に変ったポジティブなものはなかったと言わざるを得ない。その意味で「ドイツを変えた1968年」というテーゼは誤解を招く。しかし「1968年運動」によって単に「神話」という概念では適切さを欠く政治文化の変化が、

この中長期的な帰結として西ドイツには生じた。ドイツ社会民主党がブランド政権を樹立するのは1968年の翌年、1969年のことであって、この研究に着手する以前は若い世代に強く支持されたブランドの社会民主党と「1968年運動」との間には正の相関関係があるかと思っていたが、実は全く逆の関係にあったことがわかった。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。これまでは1960年代後半を中心に研究してきたが、2008年夏にドイツの社会民主党文書館で行った史料収集を生かして、現在は1960年代前半の社会民主党の研究を進めており、来年度の報告書取りまとめに向けて研究継続中である。

## 4. 今後の研究の推進方策

ドイツでの一次史料収集と文献収集を中心に進め、研究方法に変更の必要はないと考える。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計1件)

①安野正明、ドイツ連邦共和国「第二の建国期」と「1968年運動」に関する若干の考察、欧米文化研究、査読有り、第15号、2008年、29～45頁